



いつもお世話になっております。今月号の事務所だよりをお届けしますので、ご査収下さいますようお願い申し上げます。

インフレの対抗手段としての物価連動国債について

物価連動国債とは、インフレに強い国債です。

普通の国債は、元本に満期まで固定金利の利息がつきます。これだと、物価上昇率が金利を上回ると、財産が相対的に目減りします。

物価の上昇に、財産が増えるのが追いつかない、もちろん預貯金でも全く同じことです。

たとえば、元本100万円、金利が1%の利付国債を購入したと仮定しましょう。

1年で物価が2%上昇しても、1年後の元利合計は101万円です。

物価連動国債は、物価が上昇した分元本も連動して増えるので、金利は固定でも、インフレのリスクを減らすことが出来ます。

元本100万円、金利1%で物価連動国債を購入して、1年で物価が2%上昇すれば、元本が103万円になります。

極端な話、10年で物価が2倍になると預金・債権・国債は価値が1/2になってしまいます。つまり100万円の預金や国債が50万円になってしまう、金利が10年で10%ついたとしても55万円強です。このインフレリスクを減らし、資産を減らさないように考えられたのが物価連動国債です。

大手証券は、1人1,000万円からの販売を想定しているといえますから、現時点では、富裕層のみを対象に解禁されたとみていいでしょう。この仕組みを利用した少額なファンドはすでにあります。

また**2016年10月**からは、10万円単位で購入できる物価連動国債が、さまざまな金融機関で販売される見込みです。こちらは手数料がかからない分、ファンド(年間0.5%の手数料)に比べ有利です。

これまで比較的安全で、現在の金利情勢(10年金利の6.6%の金利設定)にマッチした金融商品として、「個人向け国債:変動10年」がありました。2016年からは「物価連動国債」も選択肢の一つになりそうです。

<前提>

- ・ 額面金額100億円、表面利率3%
- ・ 発行時のCPI: 100、年2%上昇
- ・ 10年満期

